

科目名		授業形態	担当教員名	
高次脳機能障害学Ⅱ（注意、記憶、その他）		講義	天谷 智子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
高次脳機能障害の代表的症状である記憶障害、前頭葉症状、注意障害等について理解することは言語聴覚療法を臨床現場で行うためには必須の知識である。これらの基本的理解をはかるために、まずは解説を行い、後半では症例検討を行い実践に役立つように講義を進める。				
授業の到達目標				
高次脳機能障害についての基本的な知識をさらに深める。 症例検討を通し、実習や就職後、臨床現場において言語聴覚療法が実施できるような基礎的な実践力を身につける。				
授業計画				
回	内容			
1	高次脳機能障害概論 授業目的の説明 高次脳機能障害研究の歴史を知る			
2	離断症候群 臨床症状を観察し発現機序について推論する			
3	記憶障害 （1） 記憶障害概論			
4	記憶障害 （2） 記憶障害の評価			
5	記憶障害 （3） 記憶障害のリハビリテーション			
6	前頭葉障害（1） 前頭葉障害概論			
7	前頭葉障害（2） 前頭葉障害の評価・リハビリテーション			
8	注意障害 （1） 注意障害概論			
9	注意障害 （2） 注意障害のリハビリテーション			
10	脳外傷によるコミュニケーション障害		概論・リハビリテーション	
11	右半球障害によるコミュニケーション障害		概論・リハビリテーション	
12	症例検討（1） VTRを観察し臨床症状を分析する			
13	症例検討（2） VTRを観察し臨床症状を分析する			
14	症例検討（3） VTRを観察し臨床症状を分析する			
15	高次脳機能障害の社会資源 現行の社会資源を学び具体的な援助方法についてディスカッション・まとめ			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第3版		藤田郁代・関啓子 編	医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
神経心理学入門		山鳥重	医学書院	
脳は回復する 高次脳機能障害からの脱出		鈴木大介	新潮新書	
自由記載				
備考				